

《競技注意事項》

この大会は、2024年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則と本大会要項ならびにオホーツク中体連大会規定、監督会議の申し合わせ事項により実施する。

1. 招集

- (1) 競技者は、出場種目の招集開始時刻までに招集所に集まり点呼を受けること。その後、競技者係の指示に従い、スタート地点・試技場に移動し、出発係及び跳躍・投てき審判員に出場する種目・組・レーン（試技順）の点呼（確認）を受ける。点呼を受けた後は、スタート地点・試技場で待機し、勝手にその場を離れてはならない。移動は係の指示に必ず従う。
他の種目と時間帯が重なっている場合は、競技者係に2種目同時届を提出すること。
棄権する場合は招集開始時刻までに棄権届を競技者係に提出すること。
- (2) 各競技の招集完了時刻は、原則次の通りとする。
ただし競技出場人数によって若干の変更があるため、競技日程の時刻を確認すること。

	ラウンド	予選		準決勝・決勝
トラック競技	競技開始時刻	1～4組	15分前	10分前
		5組以降	5分前	
フィールド競技	走幅跳・走高跳 砲丸投・円盤投			30分前
	棒高跳			50分前
混成競技		トラック10分前・フィールド15分前		

- (3) 招集に遅れた者の出場は認めないので十分に気を付けること。
- (4) 競技進行上、競技開始時刻に変更があり得るのでアナウンスを聞き漏らさないようにすること。
- (5) 各種用紙は、競技者係に備えている。（用器具庫内）
リレーのオーダー用紙は、各ラウンドの招集完了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。
- (6) アスリートビブスは縫いつけるか安全ピンで確実に止めること。（跳躍競技については、胸部または背部のいずれかでよい）
- (7) トラック競技の出場者は招集の際、出発係より腰ナンバーカード（シール）を受け、ランニングパンツの右腰やや後方に取り付ける。1500m以上の競技については胸ナンバーを取り付ける。

2. レーン・競技順

- (1) プログラムの記載の上から下へ番号順とする。ただし、四種競技は種目ごとに試技順が異なるのでプログラムで確認すること。
- (2) トラック競技の決勝レーン順のみ、番組編成員で公平に抽選し本部棟横に設置した記録掲示板に掲示する。またアナウンスを聞くこと。

3. トラック競技

- (1) タイムにより次のラウンドの出場者を決める際に、同成績者がある場合はTR21.2を適用する。
- (2) 本大会のスタートについては、TR16.5を適用せず、不適切行為を注意とする。但し、不適切行為が繰り返し行われたり、悪質なものはCR18.5ならびにTR7.2を適用する。
- (3) 写真判定のための腰ナンバーカード（シール）を使用するが、リレーの場合は、第4走者のみとする。
800m以下のトラック競技については、参加人数によって決勝とは別にTR（トライアルレース）を実施する。入賞（1～8位）については、決勝の中から決定する。TRのタイムが決勝を上回っても、順位の入替は行わない。
- (4)

4. フィールド競技

(1) 走高跳・棒高跳・走幅跳・砲丸投・円盤投

- ① 記録については、試技の1本目は計測するが、2本目以降計測ラインに満たない場合は計測しない。
- ② 第1位が2名以上の場合、順位決定のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cm単位とする。

種別	種目	計測ライン・開始の高さ	試技開始・バーの上げ方
男子	走高跳	<u>1 m 2 5</u>	1m25～1m55までは5cm上がり、以降3cm上がり
女子	走高跳	<u>1 m 1 5</u>	1m15～1m40までは5cm上がり、以降3cm上がり
男子	棒高跳	1 m 8 0	1m80～2m40までは20cm上がり、以降10cm上がり
男子	走幅跳	<u>3 m 5 0</u>	※練習の高さについては当日フィールド審判長と相談の上決定する。
女子	走幅跳	3 m 3 0	
男子	砲丸投	<u>6 m 0 0</u>	
1年	砲丸投	5 m 0 0	
女子	砲丸投	<u>6 m 0 0</u>	
男子	円盤投	1 5 m 0 0	
女子	円盤投	1 0 m 0 0	

(2) 混成競技

- ① 走高跳のバーの上げ方は次の通りとする。
- ② 最終種目は、それまでの成績順により番組編成を行う。(出場人数による)

種別	種目	計測ライン・開始の高さ	試技開始・バーの上げ方
男子	混成・走高跳	1 m 2 0	1m20～1m40までは5cm上がり、以降3cm上がり
女子	混成・走高跳	1 m 1 0	1m10～1m30までは5cm上がり、以降3cm上がり
男子	混成・砲丸投	該当しない	※練習の高さについては当日フィールド審判長と相談の上決定する。
女子	混成・砲丸投	該当しない	

(3) 助力

- ① 競技場内での助力は一切禁止とする。コーチングエリアからの助言については該当種目の競技役員の指示に従い、競技運営や他の競技者の競技の妨げにならない範囲で認める。
- ② コーチングエリアでカメラ等で競技者の競技映像を見せる際には、カメラ等を競技者に渡すことを可能とする。ただし、コーチングエリアに入れるのは指導者のみとする。

5. 競技について

- (1) 競技者・監督といえどもその競技に出場する者以外は競技場内に入ることはできない。
- (2) 短距離走では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーンに沿って走り、前後左右の安全を確認してからレーンを出ること。
- (3) リレー競技のマーカ使用は1箇所とする。使用したマーカは、そのチームで処理する。
- (4) リレーチームの編成メンバーについては、TR24.10〔国内〕を適用する。
- (5) 棒高跳の競技者は自分の希望する支柱の位置を練習のときに担当審判員に申し出ること。
- (6) 抗議と上訴については、TR8に従い、監督が総務(専門委員長)を通じて行う。

6. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具器具は、棒高跳のポール以外全て主催者が準備したものを使用しなければならない。
- (2) 個人使用のポールは、検定を受けて合格したもののみ使用できる。ポールの検定は棒高跳ピットで跳躍審判員が行う。

7. 練習について

- (1) アップについては、指定された場所以外は使用しないこと。競技場外を使用する場合は本部棟裏ゲートを出入りとする。
- (2) ホームストレート競技の際、バックストレートや外側走路を使用してもよいが、競技役員やアナウンスの指示に従うこと。

8. 服装・競技用靴について

- (1) 服装（ユニホーム）
 - ① 競技の服装は清潔であり、かつ競技に適したものとする。
 - ② リレー競技については、同一のものとし、ランニングパンツ又はハーフタイツのどちらかに統一すること。
 - ③ 身だしなみ（髪型、染色、脱色、ピアス、アクセサリ等）については各学校で十分に指導すること。（特別な事情がある場合、顧問が説明できること。）
- (2) スパイク・シューズ等
 - ① 競技用靴の靴底及び踵は、11本以内のスパイクを取り付けられる構造とする。11本以内であれば何本でもよい。
 - ② スパイクのピンの長さは9mmを超えてはならない。また走高跳の場合は12mmを超えてはならない。
 - ③ 靴底については規定外でのシューズの使用が確認された場合、失格になる。

9. 表彰

- (1) 各種目の8位までの入賞者に賞状を授与する。表彰式を本部棟前で行うので、入賞選手は競技終了後速やかに集合すること。

10. その他

- (1) 選手に事故があった時などは、大会本部に連絡すること。
- (2) 正面スタンド前（本部席前）は通行禁止とする。また正面スタンド側にテントを張らないこと。
- (3) 貴重品については各学校が管理し、盗難にあっても責任は負いかねるので注意すること。
- (4) 選手個人の携帯電話その他類似の機器を競技場内で所持及び使用することを禁止とする。
- (5) 大会中は、ゴミの持ち帰り、テント跡の清掃を必ずすること。
- (6) 開錠は両日とも午前7時30分とする。この時間前に役員以外は競技場内に入らないこと。
- (7) 公開練習は両日7：30～9：30までとする。